

# 令和5年度学校自己評価システムシート (県立上尾特別支援学校)

目指す学校像	キャリア教育を推進し、豊かに生きる力を育てる学校
--------	--------------------------

重点目標	1 個に応じた授業づくりとキャリア教育の視点を生かした教育課程の編成・実施による質の高い学校教育の充実 2 地域との連携とセンター的機能の充実 3 安心安全な学校づくりの推進 (危機管理、不祥事防止と教職員の働き方)
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】 自立活動専任や特別非常勤講師等との協働的な取組を通して、児童生徒の見立てや個に応じた指導支援が充実してきている。</p> <p>【課題】 コロナ禍の影響や業務の多忙化もあり、教職員間のコミュニケーションが希薄になりがちであり、学び合いの土壌を醸成する必要がある。</p>	個に応じた指導の充実に向けた教職員の専門性の向上	<p>①自立活動専任や年間30回の特別非常勤講師等との取組等を通して、個に応じた具体的な指導支援を実践する。(通年)〈総合支援部〉</p> <p>②プロジェクト・アドベンチャーの手法を取り入れた研修会等を通して、教職員の学び合いの意識を高める。(通年)〈企画委員会〉</p>	<p>①自立活動専任や特別非常勤講師等との取組等を通して、個に応じた具体的な指導支援を実践できたか。</p> <p>②プロジェクト・アドベンチャーの手法を取り入れた研修会等を通して、教職員の学び合いの意識が高められたか。</p>			
	<p>【現状】 校内研修会等を通して、実態把握・環境設定・教材の工夫の3つの要素を踏まえた指導・支援の改善を図ってきた。</p> <p>【課題】 学部ごとの実践は深まっているが、指導内容等、学部を越えた系統性については、引き続き検討が必要である。</p>	各学部段階で学ぶべき将来につながる力の育成を意識した指導支援の実践	<p>①「教育課程の土谷作り」等に関する校内研修会を年8回行い、報告会を通して成果を共有する。(3月)〈研究部〉</p> <p>②年間指導計画の検討等を通して各教科等の目標や指導内容について理解を深める。(通年)〈教育課程検討委員会〉</p>	<p>①「教育課程の土谷作り」に関する校内研修会を年8回行い、報告会を通して成果を共有できたか。</p> <p>②年間指導計画の検討等を通して各教科等の目標や指導内容について理解を深められたか。</p>			
2	<p>【現状】 オンラインでの交流や動画を活用した間接的な交流だけでなく、地域の活動に参加するなど、少しずつ対面での交流も増えてきている。</p> <p>【課題】 交流および共同学習や支援籍学習については引き続き実施方法の工夫が必要である。地域での活動については生徒の実態やニーズに応じた取組について検討が必要である。</p>	地域とのつながりや地域での活動等を大切に教育活動の実施	<p>①交流校との連携を十分に図り、交流及び共同学習を行う。(小2回、中1回、高1回実施予定)〈学部〉支援籍学習において、直接交流の実施を中心に、DVDを活用した事前学習などを通して実践を深める。(通年)〈小中学部・支援部〉</p> <p>②地域での活動等については児童生徒の実態に応じ、継続的に活動できる機会と活動場所を充実する。(通年)〈進路指導部・高等部〉</p>	<p>①交流及び共同学習、支援籍学習を実施し、児童生徒の意識や行動に変容が見られたか。</p> <p>②事業所見学等、地域の理解を得て活動する機会を増やすことで、児童生徒の意識や行動に変容が見られたか。</p>			
	<p>【現状】 オンライン等も活用しながら巡回相談や支援会議等を実施し、適切な支援と情報共有を図り、個々の課題改善・解決に向けて取り組んでいる。</p> <p>【課題】 巡回相談や支援会議等については、情報共有を行うため、オンラインの活用を含めた対応策を引き続き検討する必要がある。</p>	校内外支援の充実	<p>①巡回・教育相談やケース会議等の実施と校内外支援の情報共有並びに個々の課題への対応を行う。(通年)〈支援部・校内支援委員会〉</p>	<p>①近隣諸学校並びに校内において、適切な支援と情報共有し、個々の課題が改善・解決されたか。</p>			
3	<p>【現状】 危機管理マニュアルに基づいて避難訓練や引き渡し訓練を実施し、ICTに係る研修等にも計画的に取り組んでいる。また、感染症対策を徹底し、教育活動を進めている。</p> <p>【課題】 震災対応や危機管理に対する教職員の意識を高める必要がある。感染症対策については、適切な対応と教育活動の充実を引き続き両立させる必要がある。</p>	危機管理マニュアルに基づいた研修の継続及び感染症対策の徹底及び教育活動の再開に向けた対応の工夫	<p>①危機管理マニュアルに基づいた研修に取り組む。(通年)〈防災管理部、指導部、保健部、情報教育部〉</p> <p>②新型コロナウイルス感染症対策の徹底を継続しつつ、教育活動の再開に向けた方策を検討する。(通年)〈企画委員会・保健部〉</p>	<p>①校内研修を計画的に実施し、周知徹底を図るとともに、組織的に対応できたか。</p> <p>②県のガイドライン等を基に本校の実態に合わせた感染症対策が徹底できたか。</p>			
	<p>【現状】 会議の効率化やペーパーレス化が進んできている。ふれあいデーの定時退勤を推奨するための取組を行うことで、教職員のワークライフバランスの意識が高まってきた。</p> <p>【課題】 行事の精選、業務の整理等について、より効果的な方法について検討を進める必要がある。不祥事防止についての研修を定期的に行い、教職員の意識を高め続ける必要がある。</p>	働き方改革の推進及び不祥事防止の徹底	<p>①学校における働き方改革基本方針を踏まえ、ふれあいデーの定時退勤をはじめ、時間外在時間等の削減に向けた取組や会議の効率化、電子化等を行う。(通年)〈企画委員会・学校安全衛生委員会・分掌・学部〉</p> <p>②N字型の研修をはじめ不祥事根絶に係る研修に取り組むとともに、日頃から注意喚起を行う。(通年)〈企画委員会・教職員倫理確立委員会〉</p>	<p>①教育活動の必要性を踏まえた上で、ふれあいデーの推進や会議の効率化等を進められたか。</p> <p>②不祥事防止を徹底できたか。</p>			

学校関係者評価
実施日 令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等